

大学教育における書くこと

「書くのが苦手になるメカニズムと教育的対処について」

講師 渡辺哲司氏

「書くのが苦手をみきわめる」著書
(文部科学省初等中等教育局教科書調査官)

日時：12月6日(火) 15:00～17:00

会場：旭会館3階大会議室

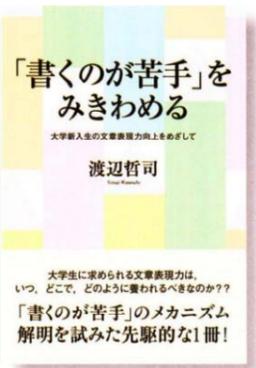
「書けない」あるいは「書くのが苦手」な学生たちに対して、大学としてどのような教育的対応をしていけばよいのか、ということは、初年次教育だけではなく学士課程を通じての大きな課題となっています。

そこで、『「書くのが苦手」をみきわめる』の著者である渡辺哲司氏を講師に迎え、「書くのが苦手」のメカニズムや調査・分析結果の紹介、「脱苦手」を目指した授業の実践例について講演をしていただき、今後の「書くこと」の教育について考える機会とします。

* 講師紹介 * 渡辺 哲司(わたなべ てつじ)

東京大学大学院教育学研究科修了。専門は「発育・発達学(子どものからだ)」。開成高校非常勤講師、九州大学アドミッションセンター講師、同高等教育開発推進センター准教授を経て、現在に至る。

九州大学在職中は、AO入試や初年次生向けの授業を担当。その中で、大学新入生が抱く、文章表現力に対する「苦手感覚」に着目し、その研究に取り組み、教育の実践において大きな成果をあげている。



★事前申し込みは不要です。当日お気軽にご参加ください★

◆主催：高等教育研究センター／共催：全学教育機構

◆お問い合わせ：学務課教務グループ 0263-37-3166 (内線811-2266)